

**長岡市・寺泊町合併協議会  
第1回新市建設計画策定小委員会**

**議 事 録**

# 第1回新市建設計画策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年1月11日(火) 午後4時
- ・場 所 長岡市役所大会議室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸  
島田 紀男 田村勝三郎 阿部 誠一

以上 7名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡市・寺泊町合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

それでは、定刻となりましたので、ただいまより長岡市・寺泊町合併協議会第1回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には、合併協議会の後でお疲れのところでしょうか、本小委員会の委員をお引き受けいただきまして御礼申し上げます。

本日の小委員会は全員の方からご出席をいただいておりますので、規程により会議が成立していることをご報告いたします。

また、合併協議会同様公開によって行わせていただきますので、ご発言の際にはマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、お手元の資料について確認をいただきたいと思います。資料は4種類、資料の1、2、3、資料4でございます。よろしいでしょうか。

続きまして、私の方から委員の皆様をご紹介させていただきたいと思いますので、資料1をごらんください。恐れ入りますが、お名前を読み上げられた方はその場にてご起立くださいますようお願いいたします。

長岡市の委員から紹介いたします。

二澤長岡市助役でございます。

大地長岡市議会市町村合併調査研究委員会委員長でございます。

続いて、寺泊町の委員を紹介いたします。

島田寺泊町収入役でございます。

田村寺泊町議会町村合併調査検討特別委員会委員長でございます。

続いて、学識経験者の委員を紹介いたします。

豊口長岡造形大学理事長様でございます。

鯉江長岡大学助教授様でございます。

そして、最後となりますが、阿部新潟県長岡地域振興局長様でございます。

ありがとうございました。以上で委員紹介を終了させていただきます。

続きまして、次第の3番目にございます委員長、副委員長選出に移らせていただきます。

長岡市・寺泊町合併協議会小委員会規程第4条に基づきますと、正副委員長は委員の互選により選任することになっております。

まず、委員長の選任からお願いしたいと思いますが、どなたかご意見ございませんでしょうか。

二澤委員。

委員（二澤和夫）

大変僭越でございますけれども、大変今までにご難儀をいただいて、また実績を上げていただきました豊口長岡造形大学理事長さんにぜひお願いをいたしたい。

事務局（北谷）

それでは、ただいま豊口委員に委員長をお願いするというご意見ございましたけれども、それでよろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございました。

ご賛同いただきましたので、委員長には豊口委員をお願いしたいと思います。

続きまして、副委員長についてどなたかご意見ございませんか。

大地委員、お願いします。

委員（大地正幸）

鯉江委員を推薦いたします。

事務局（北谷）

それでは、鯉江委員に副委員長をお願いするということでよろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございました。

正副委員長に決まりましたお二人には、お手数ですが、席を移動していただいて正面におかけくださいますようお願いいたします。

（正副委員長席に着く）

事務局（北谷）

それでは、正副委員長よりそれぞれ一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。

豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

大変僭越でございますけども、ご指名を受けましたので、これから委員長を担当させていただきます。先ほども第1回の合併協議会ございまして、すばらしいまちを、すばらしい新市をこれからみんなの協力によってつくり上げていこうという共通したご意見、考えがまとまりました。私個人的に考えましても、今度生まれます新しい新長岡市というのは山あり、海あり、そして農地あり、そしてあらゆる人々が一緒に共通してお互いに語り合える、そういう広い地域がございます。こういったすばらしく恵まれた地域を本当に皆さんが注目するような新しいまちとしてつくり上げていきたいというふうに考えております。微力でございますけど、ひとつよろしくご協力をいただきたいと思います。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

続きまして、鯉江副委員長、お願いします。

副委員長（鯉江康正）

鯉江でございます。よろしくお願いいいたします。私のような若輩者が副委員長をやれるのかというのはちょっと不安ではございますが、寺泊というのは非常に大事な町でして、ぜひ新長岡市としてともに発展していけるように、そんな建設計画を作成していきたいと思っております。特に豊口先生を助ける形で頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、この後の進行につきましては豊口委員長にお願いいいたします。

委員長（豊口 協）

わかりました。

それでは、これから議事を進行させていただきたいと思っております。よろしくご協力いただきたいと思います。

早速でございますけども、次第の4番目にございます長岡市・寺泊町新市建設計画策定に当たってにつきまして事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

事務局（高橋）

合併協議会事務局の高橋でございます。私の方から（1）、新市建設計画策定小委員会の役割について説明をいたします。恐縮ですが、座って説明いたします。

お手元にお配りしてございます資料のうち、右上に資料2と振ってあるものをお出してください。これが建設計画策定小委員会の役割について記載をしているものでございます。番号順に順次説明をいたします。

まず最初に、1番目でございます。小委員会の位置づけですが、これは先ほど行われました協議会においての説明と若干ダブる部分もございますが、よろしくお願いをいたします。小委員会は、新市全体のまちづくりの視点から建設計画にかかわる検討、審議を行い、計画案を策定する機関として位置づけしております。したがって、協議会本体から建設計画の部分について小委員会で案をまとめてほしいと付託をされておりますので、この役割を小委員会が担うこととなります。そして、計画案を策定し、協議会に提案をするということでございます。

2番目でございます。小委員会の内容ですが、基本的にはそれぞれの市、町、そして分科会等で十分に検討を経て事務局で整理をし、建設計画の内容を小委員会の方に提案したいというふうに考えております。そして、その内容について小委員会でご審議をいただき、計画案としてまとめていきたいと考えているものでございます。なお、その際に新市全体の視点で建設計画をつくりたいというふうに考えて

おりますので、よろしくお願いいたします。したがって、アイデア的なものであるとか、創造的な意見も出していただきたいと考えるものでございます。

そして、その次でございます。これからご審議、ご検討いただくポイントでございますが、事業を検討していく段階と、それから施策の体系を整理していく段階に分かれておりますが、まず事業の検討段階におきましては、単に我々が提出をいたしました内容の質疑にとどまらずに、合併後10年間のまちづくりの計画でございますので、新市全体で行っていくべき施策や事業、そういったものに対してのアイデアや創造的な意見をお出しただいて、ご議論を深めていただきたいというふうに考えております。それから、施策体系の方の整理の段階でございますが、これにつきましても全体的な内容審議を主体として議論をしていただき、そして計画案としてまとめ、協議会に提案をしたいというふうに考えております。

その下に議論のポイントということで整理してございますが、重複するようで恐縮でございます。あくまでも新市将来構想、長岡地域で決められております構想というものがございまして、それを実現するためにどういう施策を考えていくかということがポイントであると考えております。それから、もう一点でございますが、あくまでも新市全体の視点を踏まえてどのような施策、事業を行うのがいいのか、これがポイントであると考えております。

4番目でございますが、検討、審議のテーマと開催のタイミングということになっておりますが、スケジュール的な部分もございまして、あわせて説明をいたします。まず、第1回、本日でございますが、本日の議題にありますとおり小委員会の役割、それから策定の考え方と手法等についてご議論をいただく予定でございます。それから、2回目でございますが、現在1月24日に開催できればということで準備を進めております。ここでは寺泊地域の夢、要するに将来構想的なものを検討したいというふうに考えております。そして、それに伴って実現するための施策についてもここで検討をしたいというふうに考えております。それから、第3回目でございます。ここでは、協議会本体が1月の末、31日に予定されておりますので、その直前になりますが、現時点では1月の28日に3回目の小委員会を開催したいというふうに考えております。ここでは、建設計画の素案という形である程度まとめたいというふうに考えておりますので、この小委員会でまとめたものを協議会の方に提案をし、ご審議をいただき、県に事前協議という形で提出したいというふうに考えております。それから、第4回目でございますが、4回目につきましては3月に開催をしたいというふうに考えております。ここでは、県の事前協議が終わった段階で県の方から意見なり修正なりを求められることが想定されますので、それらを含めてこの第4回目の小委員会で最終版に近いものを整理してまとめたいというふうに考えております。

それから、次ページ以降の2ページの長岡市・寺泊町合併協議会小委員会規程、これが2ページ、3ページでございます。それから、4ページには長岡市・寺泊町合併協議会新市建設計画策定小委員会設置要綱がございまして、この部分につきましては先ほどの協議会で説明したとおりの内容でございますので、説明は割愛いたします。

(1)の小委員会の役割については以上でございます。

事務局(竹見)

続いて、(2)の新市建設計画策定の考え方と手法についてご説明をいたします。合併協議会事務局の竹見と申します。失礼ながら、座って説明いたします。

お手元の資料3をごらんください。資料3は、新市建設計画策定方針ということで、先ほどの合併協議会の本体の方でご承認をいただいております。本小委員会では、こちらの策定方針を少し詳しくご説明をいたします。

2番の計画策定の基本方針という形の中で、新市建設計画策定に当たっては、「長岡地域新市将来構想」及び「長岡地域新市建設計画」を基本とさせていただきます。お手元に将来構想、それから新市建設計画があるかと思えますけれども、こちらをセットとして考えていくという形で、終始一貫した考え方で進めてまいりました。

それでは、建設計画の5ページをごらんください。緑色の表紙のものです。あと将来構想はお持ちでしょうか。よろしいですか。それでは、5ページは建設計画策定に向けてということで、建設計画の根本的な考え方をまとめてございます。こちらに一番上に書いてございますように、建設計画とは新市の地域らしさ価値を高めていく計画ですと。そして、中ほどに三つほど太字で書いてございます。建設計画とは、一つとして構成市町村が新市において共存共栄を図りながら一体的な活動をするための計画であると。それから、二つ目が新市将来構想を実現する、いわゆる新市の地域らしさ価値を高めるための具体的な事業計画であるということ。そして、三つ目が住民と行政が協働で実施するまちづくりの活動計画であるということです。これ行政だけが行う計画ではなく、住民と行政が一体となって行うための活動計画であるということです。

全体的なイメージといたしましては、こちらの81ページをごらんください。少しページが飛びます。こちらは、長岡地域新市将来構想と新市建設計画とのつながりをまとめてございます。赤くくった部分が新市将来構想、そして緑色でくった部分が新市建設計画でございます。一貫して策定当初から市民の声、思い、それから地域の資源の強みというものを原点にして策定してまいりました。その下に四つの新市地域らしさ価値、独創企業が生まれ育つ都市、そして元気に満ちた米産地、世代がつながる安住都市、そして世界をつなぐ和らぎ交流都市、これらを四つの新市地域らしさ価値としてまとめてまいりました。そして、右の方に新市統合ビジョンとして人は財、いきいき都市・新ながおかという形の中で、人々の活動により長久の繁栄を獲得していくという形で統合ビジョンをまとめております。その下をごらんいただきますと、重点実現項目、そして地域別整備活動方針がございまして、これは、四つの地域らしさ価値を高めるためにどういう活動をしていったらいいかというものをまとめてあります。地域別整備活動方針につきましては、長岡地域6市町村ができております。このたび寺泊地域の地域別の活動方針を今回の小委員会の中で策定していくということになります。こちらは、地域の役割をどういふうに担っていくか、そしてどういう地域になりたいかというものを地域の強みを見きわめながら策定

していくものでございます。それから、下の方になりますけども、新市による根幹事業、建設計画掲載事業というものを整理してまいります。こちらの上の重点実現項目、あるいは地域別整備活動方針を実現していくために、どういう事業を行っていったらいいかということをご検討いただきます。右の方に戦略的事業、そして生活基盤整備事業、そして合併に伴い必要となる事業、この三つの大きな柱の中で新市の根幹事業を整理していきます。そして、下にありますけれども、新市建設の根幹になる新潟県事業という形の中で横断的にまとめていくというふうなことになります。そして、左にありますように市民と行政の基本的なあり方という形の中で、常に市民はオーナーであるということで、市民をオーナーとして新市建設計画を考えていくということになります。

もう一度5ページの方にお戻りください。5ページの下の方に二つ四角でくくってございますけれども、まず現6市町村の既存計画との関連についてまとめています。既存計画は、いろんな総合計画を初めとするさまざまな計画がございますけれども、既存計画につきましても新市建設計画の重要な素材として位置づけるということ。それから、下の方に新市の総合計画との関連でございますけれども、新市建設計画というものは新市将来構想を実現するための根幹となる事業を明確にしていくものでありまして、新市の全分野に及ぶ施策や事業につきましては新市合併後につくる総合計画の中でまとめていくということでございます。

続きまして、資料3の(2)の新市建設計画の策定は、「長岡地域新市建設計画」に長岡市と寺泊町との合併に必要な内容を追記することにより行うこととし、長岡地域合併協議会で策定した内容は、変更しないものとするでございます。これをちょっと具体的にご説明いたします。本日の資料4をごらんください。建設計画の第1章は、新市の概況から見た可能性など概況をまとめてございます。こちら1ページをごらんになっていただくとおわかりになると思いますけれども、6市町村のアクセス時間が書いてございます。ここに寺泊町のアクセス時間を追記したり、あるいは下のグラフにありますように長岡市までのアクセス距離を追加しております。それから、3ページをごらんください。こちらは人口動態の見通しでございますけれども、6市町村のデータに寺泊町が三島町の上の方に書いてございますけれども、こういった形でデータ関係は追記していくということになります。

それから、建設計画の方にもう一度戻ってください。24ページが第2章で建設計画の基本方針ということでまとめています。こういった6市町村で確定した新市のまちづくりの基本的な考え方などについては変更しないということです。

それから、34ページですけども、これ最後小国地域の地域別の活動方針をまとめていますが、この次に寺泊町さんの地域別整備活動方針を追記するというふうな形になります。

それから、第3章は変わりません。

そして、第4章を、45ページをごらんください。45ページ以降は、具体的な事業計画などを掲載しております。基本的には、今掲載している内容につきましては変更しないということですが、寺泊町と長岡市との間で必要な事業につきましては欄を増やしたりして追記をしていくということになりま

す。

それから、50ページをごらんください。こちらリーディングプロジェクトという形でまとめておりますけれども、左から2番目の戦略方針までは変えません。ただ、右側のリーディングプロジェクトの矢印の部分を追記するとか、あるいは新しい内容があれば、それをつけ加えるというふうな形で整理しています。以下、第5章以降につきまして同じような形で追記をしていくということになります。

続きまして、資料3の4番、長岡市と寺泊町との合併において追加する内容をご説明いたします。(1)として、新市建設の基本方針です。寺泊地域の夢という形でまとめています。お手元の長岡地域新市将来構想をごらんいただきたいと思います。お持ちでしょうか。新市将来構想の51ページをごらんください。よろしいでしょうか。51ページをごらんください。こちら地域の夢の検討手法と経過ということでまとめています。51ページの上の方には検討全体の流れということの中で、下の方にありますように新市地域らしさ価値を高める方向性、そして活用すべき地域資源の強みを考えながら地域の将来像というものをまとめていくというふうな形になっております。6市町村がどういう形でまとめてきたかといいますと、52ページです。52ページに自治体職員ワークショップ実施プログラムとして各地域の資源、素材を残らず挙げて、いろんな地域資源を見極めながら地域らしさ価値実現に向けた地域の役割を考えてきたというふうな形です。今回もこういったテーマを絞りながら検討していくということになります。

それから、53ページ以降が各それぞれの地域ごとの地域の夢ということでまとめております。53ページからは長岡地域ですけれども、ずっとおめくりいただきますと、最後86ページまで続いております。それぞれ地域の夢の地域の形を紹介しながら地域別整備活動方針を資源の強み、あるいは地域らしさ価値を高める方向性から導き出していきます。そして、それを実現していくための活動展開というものをまとめていくというふうな形で整理をかけていきます。それらをまとめたものを建設計画、こちらの緑色の表紙になりますけれども、こちらの方でまた整理をかけていきます。それが先ほどご説明いたしましたように34ページの次、小国地域の次に寺泊地域の夢、それから35ページ、36ページに地域別整備活動方針を追記していくというふうな形になります。

それから、資料3の(2)、新市建設の施策でございます。こちらが長岡市と寺泊町との新市建設に係る新市による根幹事業と新潟県の根幹事業です。建設計画の41ページをごらんください。こちらは、建設計画の事業区分の設定をしております。新市の統合ビジョンにありますように人は財、いきいき都市であるということで、人々の活動によりまちをつくっていくということです。市民はオーナーということもありまして、そういった人々の気持ちの視点の中から事業を組むということというふうな形で大きく三つ柱を出しております。一つ目が戦略的的事业です。それから、二つ目が生活基盤整備事業、そして三つ目が合併に伴い必要となる事業ということで、それぞれ期待感、達成感、そして安心感、そして一体感を高めていく事業区分ということでまとめております。それから、戦略的的事业の中でリーディングプロジェクトというのがございます。こちらが合併後3年程度までに着手、実現でき、新市民の達成感が得られ、新市としてやっていけるという、そういった期待感を醸成するハード、ソフト事業をこれ

から検討していくというふうになります。通常リーディングプロジェクトといいますと、ビッグプロジェクト的なものが多いんですけども、今回の新市建設計画ではお金がなくても少しずつでも積み重ねていき、達成感を高めていくと、そういった形で整理をかけていくということになります。それから、新市建設の根幹となる新潟県事業をこれからの中で整理していくというふうな形になります。

追記につきましては、先ほどご説明いたしましたように第4章以降に追記をしていきます。

それから、資料3の4番の(3)の財政計画でございます。建設計画の75ページをごらんください。第9章で財政計画という形でまとめています。基本的な考え方、それから前提条件を整理した中で、76ページにありますような財政計画、平成17年度から26年度までの10年間の合計をそれぞれの項目ごとにまとめていくというふうな形になります。

続きまして、資料3の5番の策定手順です。策定手順につきましては、建設計画の37ページをごらんください。37ページには、建設計画策定のプロセスをまとめてございます。左の方に各市町村、分野別分科会、そして企画総計、合併担当ワーキングというものをやりながら6市町村ではまとめてまいりました。今回も各市町のご担当、それから分野別分科会、そして企画の担当の皆さんから参画していただきながら建設計画の素案をつくります。そして、下から2番目にありますように本小委員会で計画全体の検討を行って、合併協議会本体の方にお諮りしながら、新潟県との協議に入っていきます。そういった形でまとめていくことになります。

それから、資料3の6番の構成でございますけれども、建設計画の表紙をおめくりいただきますと、目次がございます。こちらの目次に沿った構成で取りまとめていくと、そういった形になります。

説明は以上です。

委員長(豊口 協)

どうもありがとうございました。

今資料2、資料3の順序に基づきまして、新市の将来構想及び新市の建設計画の内容につきまして事務局に説明をしていただきました。この点かなり厚い、幅広い、今までお手元に既に資料はお渡ししてありますけれども、それをごらんいただいた上で何かご質問等がございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでございましょうか。この小委員会の役割と手法について、それぞれの将来構想、建設計画の内容について説明をしていただきました。よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長(豊口 協)

どうもありがとうございました。

それでは、特にご質問等がございませんので、次に移らせていただきたいと思います。

先ほど開催されました長岡市・寺泊町合併協議会において、建設計画の策定に当たっては長岡地域新市建設計画を基本とするということが決まっております。そして、今説明のあった内容はいずれもこの長岡地域の建設計画策定と同様のものがございますので、これでこれからも進めていきたいと思っております。

が、よろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、次に新市建設計画についてとあります。

これも事務局よろしいですか。

事務局（竹見）

それでは、今ご承認いただいた策定の考え方と手法に基づきまして策定していくということになります。

最初に、寺泊町さんのことを知っていただくことが非常に大切であるということから、寺泊町の概況をご説明いたします。

寺泊町のご担当からよろしく願いいたします。

寺泊町事務局（長谷川）

それじゃ、委員長さん、よろしゅうございますでしょうか。総務課長の長谷川と申します。貴重なお時間をちょうだいいたしまして恐縮ではございますが、当町について説明をさせていただきたいと思えます。今日は、パンフレット等の資料をご用意させていただきました。ちょっと細長い、青い海が出ております観光パンフレットをお手元にお持ちいただきながらお聞きいただければと思っております。

当町は、昭和32年に旧大河津村と合併いたしまして今日に至っております。人口は、昨年12月31日現在住民基本台帳人口で1万1,838、これは年々少しずつ減ってきております。世帯数は、同じく昨年の12月31日現在で3,244、面積にいたしまして58.16平方キロメートル、南北16キロの海岸線を有しております、東西7キロ、ちょうど新潟県を縮小したような形となっております。当町は、何と申しまして観光立町を掲げる町でございます。来町者に寺泊はどんな町ですかと、こう尋ねられますと、必ずや海と魚と温泉の町ですと、このようにお答えをさせていただいております。関東圏を初め全国からご来町をいただいております。この観光パンフに沿いまして、その観光資源の幾つかについてご紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、パンフの4ページでございますけれども、当町には南北16キロの海岸線に海水浴場が四つございます。北から野積、中央、金山、郷本でございます。遠浅の海水浴場、あるいは岩場で水がきれいな海水浴場等々それぞれ特色を持っております。

続きまして、23ページお聞きいただきたいと思えますけれども、皆様もご存じのとおり魚の市場通りがございます。通称魚のアメ横とおっしゃられる方もいらっしゃいますけれども、現在4社8店舗で営業をいたしております。昔は、このところは海の中でございます。大河津分水路の排出される土砂によりまして陸地が形成され、昭和49年に現在のところに魚の卸売業者が出店をいたしました。当時は深海に生息いたしますベニズワイガニが非常に多くとれまして、身の少ないような売り物にならないカニを無償で観光客に提供いたしました。これが口コミになりまして、寺泊へ行くと、カニがただで食べら

れるというふうなことが広がりまして、年々客が増えていったというふうな経緯がございます。そして、昭和57年の11月の上越新幹線の開業、あるいは昭和60年の関越自動車道の全通開通により、ひところは300万人の観光客を記録させていただきました。現在は、高速道路の新規開通等により分散化傾向でございまして、平成15年はそれでも216万人の入り込み客でございました。

また、当町は日本海の鎌倉とも言われておりまして、多くの寺院や史跡が多数ございます。ちなみに、お寺に関しましては海岸線に15のお寺がございます。史跡について若干説明させていただきたいと思っておりますけれども、ページの18でございまして、ここにお寺を紹介させていただいております。

また、めくっていただいて20ページに、先ほどもお話出ております良寛にかかわる史跡も多ございます。良寛が生涯3回ほど住んだと言われております密蔵院、あるいは妹のむらの墓等々良寛にかかわる史跡もここに掲載をさせていただいております。

また、戻っていただきまして、16ページの中ほどでございまして、江戸時代大阪から北海道へ交易をいたしました北前船の寄港地として当町は栄えたと伝えられております。航海の安全を祈って奉納されました国指定の重要民俗文化財、船絵馬50種類が白山媛神社に保存をされております。これ一般公開もいたしております。

また、戻っていただきまして、15ページで、右側でございまして、当時寺泊から佐渡へ渡られた順徳上皇、日蓮上人等々がいらっしゃいましたけれども、これにまつわる史跡や、今年のNHK大河ドラマであります源義経主従が奥州落ちをする際寺泊に一時かくまわれておりまして、このときに家来の弁慶が掘ったと伝えられる井戸等の史跡がございます。

これらの史跡のほかに、当町には町直営の海に浮かぶ水族博物館がございます。子供たちの学習の場として、あるいは観光のスポットとして今も人気を博しております。現在420種類の魚がおりまして、平成15年には10万人の方からご来館をいただいております。

また、当町にはこれ以外でも年間を通じて釣りが楽しめます。釣りについては8ページに掲載をさせていただいておりますけれども、現在釣り船が14艘、平成15年は3万人弱の方から利用させていただきました。また、磯釣り等の来町者も多数いらっしゃいます。季節によりましてイカや、キス、アジ、イナダ等々が釣れております。

また、近年は若い人たちがジェットスキーやボートセーリング等のマリンスポーツを楽しむ方も増えてきております。これは、6ページに記載をさせていただいております。

そんな中ではございますけれども、今年の6月10日から佐渡との最短距離にあります当町と佐渡赤泊を結ぶ両泊航路と私ども申しておりますけれども、今までのカーフェリーにかわりまして、片道1時間で行けます高速船の就航が決定をいたしております。

以上が当町の観光の現況でございまして、しかしながら当町は農業がやはり基幹産業ということになってございます。農家戸数は950戸、水稻作付面積が972ヘクタール、収穫量は5,160トンにも及んでおります。近年は観光と農業の連携を図り、集客に結びつけようと町と観光協会と農協が合同で無償

もしくは低廉な価格で魚や地元の農産物を提供いたします食と魚のフェスティバルと、このように題しましてイベントを開催しております。また、浜茶屋を農産物の直売所として週3日活用して、その効果を上げている状況でございます。

以上、当町は観光を中心にした町でございます。当町の現況について説明をさせていただきました。大変ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

なかなかすばらしいパンフレットで、また内容も非常に魅力ある内容でまとめてくださっております。今ご説明伺いまして、非常によく理解できました。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして資料4に基づきまして事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

事務局（竹見）

資料4をごらんください。資料4は、建設計画の第1章の一部でございます。寺泊町と6市町村が合併した場合どんな形で位置や人口、それから面積を整理していったらいいのかということで、途中でありますけれども、ご説明をいたします。

資料4の1ページをごらんください。こちらが位置、地勢ということで、各地域から新市の中心部までのアクセス距離、それから時間を整理しております。寺泊町は、長岡市までのアクセス時間としては50分であるということです。それから、長岡市までのアクセス距離としては30.9キロであるということで整理しております。

それから、2ページをごらんください。こちらが人口、世帯です。平成12年の時点で24万9,988人で、新潟県総人口の1割を占めるということになります。

続きまして、3ページをごらんください。こちらが人口動態の見通しを整理しております。上のグラフが人口の推移ということの中で、寺泊町さんが三島町のすぐ上のグラフになりますけれども、こういう形で整理をかけております。

続きまして、4ページをごらんください。こちらが気象をまとめています。特に真ん中ほどに長岡地域の最大積雪深と積雪日数をまとめていますけれども、寺泊町は特に積雪の少ない地域であるというふうな形になっています。

続きまして、5ページをごらんください。こちらが新市の面積をまた整理をしております。合計で584.1平方キロメートルであるということです。新潟県全体の4%です。

続きまして、土地利用です。6ページをごらんください。こちらが土地利用をまとめています。真ん中ほどをごらんになっていただきますと、三島町と寺泊町と見比べますと、ほぼ同様な形で土地利用されているということがうかがえます。

続きまして、7ページをごらんください。こちらが都市計画区域をまとめたものでございます。行政区域あるいは用途地域とかまとめておりますけれども、寺泊町さんは都市計画区域がないところである

ということです。

以上で説明を終わります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、これからご質問を受けたいと思いますが、最初に町勢概要につきまして先ほど詳しくパンフレットでご説明いただきましたけども、今資料4の内容につきましてよくご判読いただきまして、これからご質問がありましたらぜひお願いしたいと思います。よろしいですか。

じゃ、お願いいたします。

委員（田村勝三郎）

簡単なことでございますけれども、資料4でございますが、位置、地勢の関係で長岡市さんから寺泊町の所要時間が50分となっておりますけれども、このルートを具体的にお聞かせいただきたいんです。

委員長（豊口 協）

じゃ、事務局、もしわかりましたらお願いしたいと思います、ルート。

事務局（竹見）

これ実際に寺泊町さんのご担当から直接はかっていただいた時間なんです。詳しいお話はご担当から。

委員（田村勝三郎）

わかりました。承知いたしました。

委員長（豊口 協）

前の段階で6市町村の場合も資料で書かれていた時間と実際にずれている場合があります、実際走っていただいて、時間をはかっていただいて記載したという事例がございますので、今回もそうだと思います。

委員（田村勝三郎）

よろしいですか。私の住居しているところは寺泊町でも長岡市さんから見れば入り口に位置するんですが、通常でありますと35分、40分かからないで行くこともできる、帰ることもできるということございまして、50分の数字がどこから出たのかなと、単純な質問でございました。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

ほかにございませんか。よろしいでしょうか。こういう形で内容をそれぞれ精査しながら追記をしていくということになります。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それじゃ、ご質問がなければ、今度は全体でこの新しい計画につきましてご意見をいただいてまいり

たいと思いますが、何か事務局からご説明ありますか。

事務局（竹見）

今ご担当から寺泊町さんの概要説明をいただきました。今回のこの直前の協議会でもいろいろご意見が出ていたわけなんですけど、これから長岡市、寺泊町の合併による将来構想実現に向けての今後のいろんなまちづくりについて委員の皆様からいろんなご意見やお考えなどお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

委員長（豊口 協）

わかりました。

ということで、とにかく意見を述べなさいと、こういう述べてほしいという事務局からの依頼でございます。何か。

お願いいいたします。

委員（阿部誠一）

それじゃ、建設計画に登載する新市による根幹事業と新潟県の根幹事業についてちょっと意見を申し述べさせていただきたいと思いますが、まず建設計画に登載する事業は10年間でおおむね実施可能だという事業に登載されるわけです。その背景には、財政的な問題が当然伴ってきます。寺泊町さんの状況を見ると、必ずしも財政状況よろしいというわけでもないだろうと思いますし、長岡市さんも今回の震災によってかなりの財政的負担を強いられておるところでございますので、そういう財政面という現実面を踏まえた個別具体的な登載事業にすべきではないのかなという意見が1点でございます。

それから、もう一つなんですけども、既に6市町村で新市の建設計画が策定されておりまして、寺泊町さんの根幹事業をこれに追記するという方法になるわけでございます。したがって、これまで6市町村との建設計画の登載事業は、特に新潟県の根幹事業については関係市町村からいろんな事業が要望されたと思いますけども、実際に登載された新潟県の根幹事業はその中でも厳選をしていただいたというふうに私は理解しております。それと横並びで登載をお願いした方がいいのかなと、これが二つ目の要望でございます。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

実は非常に重要なところについて今ご意見いただいたと思うんですけども、6市町村の合併を主体として計画をしてきた時期とそんなに時期はずれているわけじゃないんですけども、その間に水害も含め、さらには地震が起きたということで、さまざまな新しい予見がここへ入ってきております。そういうことを前提としてやはり県の根幹事業に対して今回の新しい策定を、建設計画をどうするかということ、これは非常に重要な課題が含まれていると思いますので、その辺はこれからいろいろと意見を交換しながら問題を精査して、県の方にもご相談申し上げて、記載していきたいというふうに私は思いますけど、

ご意見いかがでしょうか、皆さん。よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、そういうふうとにかく問題につきましてはさらに精査をしながら、具体的な計画にそれを載せていくというふうにしたいと思います。ありがとうございました。

ほかにございませんか。よろしいですか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それでは、今大変貴重なご意見、県の方からもいただきました。これは、恐らく今回のこの小委員会の一番要になる問題ではないかなという気もいたしますので、全体の予算計画も含めてこれから事務局ないしは担当のレベルでさらに精査をしていきたいというふうに考えております。

本日ご意見いただく内容につきましては大体そういうことで全体が終わっておりますが、事務局、何かございませんか。

事務局（高橋）

スケジュール的な話になってしまいますが、先ほど私の方で役割のところでも少し具体的な日付でお話をしたわけですが、次回の小委員会の日程ですが、1月24日、月曜日ですが、夕方の4時から第3委員会室という場所で、この建物の6階になりますが、そちらの方で予定をしております。

それから、その次ですが、1月の28日、時間はまだこれから調整でございますが、第3回目の小委員会の開催を予定しております。また会場、時間等が決まりましたら、すぐご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

事務局の方からはスケジュール関係だけですので、以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

大変貴重なご意見をいただきながら、細かいこれからの今後のスケジュール等も今日決めていただきました。

これですべて今日審議します内容につきましては終了いたしましたので、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

（散会 午後4時53分）